

神経研究の進歩 総目次

1956年～1964年（1巻1号～8巻4号）

- 1巻1号 '56年1月
神経系疾患の診断法（Ⅰ）
- 1巻2号 '56年4月
神経系疾患の診断法（Ⅱ）
- 1巻3号 '56年8月
代謝障害と神経疾患（Ⅰ）
- 1巻4号 '56年12月
代謝障害と神経疾患（Ⅱ）
- 2巻1号 '57年4月
脳の生理に関するシンポジウム
- 2巻2号 '57年10月
脳腫瘍
- 2巻3号 '58年3月
第1回国際神経科学学会展望（Ⅰ）
- 2巻4号 '58年5月
第1回国際神経科学学会展望（Ⅱ）
- 3巻1号 '58年10月
第1回国際神経科学学会展望（Ⅲ）
- 3巻2号 '59年1月
肝脳疾患（Ⅰ）
- 3巻3号 '59年4月
肝脳疾患（Ⅱ）・小脳
- 3巻4号 '59年9月
錐体外路系（Ⅰ）
- 4巻1号 '59年11月
錐体外路系（Ⅱ）
- 4巻2号 '60年1月
展望・脊髄血管障害例
- 4巻3号 '60年8月
神経化学懇話会
- 4巻4号 '60年8月
興味ある症例の臨床と病理
- 5巻1号 '60年10月
第1回神経病理懇話会
- 5巻2号 '61年5月
脳血管性障害（Ⅰ）
- 5巻3号 '61年9月
脳血管性障害（Ⅱ）
- 5巻4号 '61年12月
脳血管性障害（Ⅲ）・精神薬理
- 6巻1号 '62年3月
脳炎・膠質細胞（第2回神経病理懇話会）

- 6巻2号 '62年7月
小児神経病学
- 6巻3号 '62年9月
第4回神経化学懇話会特集号
- 6巻4号 '62年11月
神経解剖
- 7巻1号 '63年1月 ¥ 1,400
脳腫瘍（第3回神経病理懇話会）
- 7巻2号 '63年3月 ¥ 1,200
神経疫学・診断検査法
- 7巻3号 '63年6月 ¥ 1,400
脳研究のあゆみ
- 7巻4号 '63年8月 ¥ 1,200
第5回神経化学懇話会特集号
- 8巻1号 '64年1月 ¥ 1,200
末梢神経（第4回神経病理懇話会）
- 8巻2号 '64年4月 ¥ 1,200
奇形性神経疾患
- 8巻3号 '64年7月 ¥ 1,300
第6回神経化学懇話会特集号
- 8巻4号 '64年11月 ¥ 1,000
視床—構造・機能・臨床
- 9巻1号 '65年3月 ¥ 1,000
蛍光抗体法とVirus性脳脊髄炎
- 9巻2号 '65年7月 ¥ 1,000
代謝性神経疾患
ミオパチーの疫学と臨床
- 9巻3号 '65年9月 ¥ 1,000
第7回神経化学懇話会特集号
- 9巻4号 '65年12月 ¥ 1,000
神経シンポジウム
- 9巻4号まで売切れになっています。

'66年3月 第10巻 第1号 1,000円（売切）

脳のシンポジウム

- 【開会の辞】……………本 川 弘 一
- 【主題 脳研究の方法論をめぐって】
- 線維結合……………草 間 敏 夫
- 脳細胞研究の新しい方法……………勝 木 保 次
- 脳の生化学的研究……………塚 田 裕 三
- 神経病理学的研究の主方向について
の2, 3の考察……………白 木 博 次

精神医学の科学的基礎としての行動

研究……………臺 弘

情報工学から見た脳の機能……………南 雲 仁 一

【主題 ニューロンをめぐる】

シナプスの電子顕微鏡的構造……………浜 清

神経細胞の測定……………萬 年 甫

シナプスの伝達物質……………竹 内 昭

視床ニューロンの活動様式……………中浜 博・他

【主題 視床下部をめぐる】

視床下部の線維連絡……………伴 忠 康

視床下部と摂食行動……………大 村 裕

視床下部と性機能……………小林 隆・他

視床下部と情動行動……………中 尾 弘 之

【主題 睡眠をめぐる】

睡眠のポリグラフィ的研究……………大熊 輝雄・他

睡眠における外側膝状体の反応性……………岩 間 吉 也

睡眠と遠心機能……………久 保 田 競

ナルコレプシーの脳波学的研究—逆

説睡眠に関連して……………金子 仁郎・他

低級脂酸の臨床的応用……………山村 秀夫・他

【原 著】

門脈外科領域における肝性脳症の臨

床的ならびに実験的研究 第2

編 実験的研究……………豊 島 範 夫

【古典のページ】

ゴルジについて……………萬 年 甫

ニューロン説—理論と事実—……………Camillo Golgi

萬年 甫 (訳)

'66年7月 第10巻 第2号 1,000円

第8回神経化学懇話会

序にかえて……………塚 田 裕 三

【一般演題および討論】

脳内アミノ酸代謝に及ぼすフェニー

ルアラニンの影響……………野口 鉄也・他

Infusion Method による脳アミノ

酸・蛋白代謝の研究……………渡 辺 昌 祐

幼若ラッテ脳単離核における蛋白合

成……………間 瀬 桂 吉

脳の細胞核の分離とDNAの抽出……………森 浩一・他

家兎摘出網膜でのアミノ酸および核

酸の代謝……………塚田 裕三・他

白鼠摘出交感神経節のアミノ酸輸送

と活動電位……………永田 豊・他

慢性覚醒剤中毒マウスの脳ATPase

について……………大須賀恒夫・他

マウス自発運動量と脳内カテコール

アミン……………亀山 勉・他

脳アセチルコリンエステラーゼの量

的分布差および細胞学的局在部

位に及ぼす電気ショックとスト

レスの効果……………福田 哲雄・他

脳ミトコンドリアのADP呼吸調節

およびミトコンドリア内PNの

酸化還元に及ぼすMgイオン

等の影響……………岩本 省司・他

脳ミトコンドリアの分離調整法につ

いて……………瀬田喜一郎・他

脳におけるNAD(DPN)の生合成

とその代謝回転について……………出口 武夫・他

脳におけるNAD代謝の特異性—と

くに肝臓との比較において—……………川合 仁・他

自律神経系と肝の糖質代謝……………嶋津 孝・他

脳脂質に関する研究—第1報: ニワ

トリの脳の成熟過程における脂

質および脂酸の推移……………相沢 豊三・他

神経成長促進因子 Nerve Growth

Promoting Factor (NGF) の

研究(その2)……………中沢 恒幸・他

脳LDH isozymesの研究……………伊藤 斉・他

髄液の酸塩基平衡に関する研究……………田崎 義昭・他

【Special Lectures and Discussions】

Protein Specificity and Neuronal

Function……………F.O. Schmitt

Neurochemical Studies in Subcel-

lular Fractions of the Brain ……E. De Robertis

Neurochemical Correlates of

Behavior……………M.H. Aprison

The Effect of Psychotropic Drugs

on the Metabolism of Cerebral

Monoamines……………A. Pletscher

The Interaction of Injected Reser-

pine and Dihydroxyphenylala-

nine or D-Amphetamine on

Electrophysiological and Beha-

vioral Responses in a Condi-

tioned Approach Situation in

the Cat……………K.F. Killam et al.

Trends in Developmental Neuro-

chemistry……………J.P. Schade

Enzymatic Basis for the Active

Transport of Na and K across

the Cell Membrane J.C. Skou

【第6回神経病理学会】

神経病理研究の回顧と将来の展望……王 丸 勇
発癌物質による腫瘍生成過程に見ら

れるウイルス様小体について……生 田 房 弘
摘出脳腫瘍細胞内に観察された多角

結晶様構造……谷 栄 一
一般演題(1)～(73)抄録・討論

【古典のページ】

カハールについて……萬 年 甫
ニューロンの構造と結合

……サンチャゴ・ラモニ・カハール
萬年 甫(訳)

'66年10月 第10巻 第3号 1,000円

【脳のシンポジウム】

【開会の辞】……本 川 弘 一

【主題 脊髄の構造と機能】

司会総括……小 川 鼎 三

脊髄の細胞構築学……岡 本 道 雄
脊髄運動神経細胞における

シナプス伝達……荒 木 辰之助

指定発言 皮膚からの

運動抑制について……久 保 田 競

二、三の正常および異常脊髄反射の

発現機序について……藤 森 開 一

指定発言……本 間 三 郎

種々の脊髄疾患における傷害の

選択的局在について……豊 倉 康 夫

指定発言 転移性腫瘍による脊

髄圧迫症の臨床病理学的考察……荒 木 淑 郎

指定発言 脊髄の血行と

交感神経切除……木 村 忠 司

【主題 脳と行動】

司会総括……吉 井 直三郎

ネズミの条件行動における

海馬の役割……二 木 宏 明

指定発言……小池上 春 芳

行動空間の解析……平 尾 武 久

指定発言……臺 弘

辺縁系—視床下部による性ホルモンの

フィードバック調節機序について……川 上 正 澄

代謝異常と脳の機能障害……柿 本 泰 男

指定発言 脳の機能生

化学研究的……塚 田 裕 三

諸種中枢作用薬と行動……小 林 竜 男

指定発言 薬物作用は動物の

学習または行動経験によつ

て変型される……島 本 暉 朗

【主題 視床の構造と機能】

司会総括……草 間 敏 夫

視床腹側核の比較解剖と線維結合……新 見 嘉兵衛

指定発言……大 谷 克 巳

慢性的視覚領切除による

外側膝状体の機能変化……岩間 吉也・他

指定発言 ウサギおよびネコの外側

膝状体についての実験的研究……金 関 毅

指定発言……中 浜 博

神経病理学の立場からみた

視床の機能……白 木 博 次

指定発言 視床の血管性障害の

臨床病理学的考察……椿 忠 雄

人脳定位脳手術の経験からみた視床

VL核とその周辺領野について……梶 林 博太郎

指定発言 人視床刺激による誘発電

位とその定位脳手術への応用……佐 野 圭 司

指定発言 視床腹側核の自律系反応と

眼検閉鎖について……堺 章

【主題 脳循環】

司会総括……荒 木 千 里

脳血管の比較解剖学的研究……和佐野 武 雄

脳循環と脳機能—その生存限界……須 田 勇

指定発言 脳灌流よりみた

脳循環の問題……川 北 幸 男

選択的脳冷却法の脳外科的応用……半 田 肇

指定発言……後 藤 文 男

指定発言 脳血流停止の限界……工 藤 達 之

脳卒中の成因の事項……亀 山 正 邦

指定発言……光 野 孝 雄

指定発言……勝木司馬之助・他

脳浮腫の電子顕微鏡学的研究……植 木 幸 明

【原 著】

神経筋疾患の組織化学的研究……岡 田 高 明

【古典のページ】

Guillain-Barré 症候群(1916年)……平 山 恵 造

細胞反応のない、脳脊髄液の蛋白増加

を伴った根・神経炎症候群について

—腱反射の臨床的ならびに描画……G. ギラン・他

上の特性に関する考察……平山恵造(訳)

'66年12月 第10巻 第4号 1,000円

【特集 記憶】

「記憶」の特集にあたって……………時 実 利 彦
 ネuronと記憶……………久 保 田 競
 記憶の生理学的基礎……………二 木 宏 明
 J.Z. ヤング：一つの脳に貯えられ

る2種類の記憶……………東大脳研生理グループ
 記憶の分子仮説……………塚 田 裕 三・他
 電子計算機のメカニズムと記憶……………野 崎 昭 弘
 臨床における記憶の問題……………稲 永 和 豊
 「記憶」研究に関する文献集〔1961～1964〕

【第7回神経病理学会】

はじめに……………飯 塚 礼 二
 ミオクロムス小体の生検像……………大 田 民 男・他
 多核神経細胞について……………浜 田 晋
 Lewy Body を伴ったHallervorden-

Spatz 症候群の1剖検例……………秩 父 政 夫・他
 慢性経過をとった日本脳炎と考えられ

る1剖検例……………十 東 支 朗・他
 Leukodystrophy with Diffuse Rosen-
 thal Fiber Formation (Alexander's

Disease) の1剖検例……………入 久 巳・他
 Foix-Alajouanine病の1例……………松 下 正 明・他
 水俣病長期経過による脳病変の推移……………松 本 英 世・他
 動物の神経原線維変化の実験的研究

—とくにその発現部位について—

……………田 中 政 春
 有機水銀中毒症の神経病理学的研究……………小 宅 洋・他
 “豚の神経性皮膚症”に関する病理組

織学的研究……………佐 藤 博・他
 一般演題〔1〕～〔102〕抄録・討論

'67年3月 第11巻 第1号 1,000円

【特集 いたみ】

いたみをめぐる当面の諸問題……………山 村 秀 夫・他
 いたみの側定……………清 原 迫 夫
 痛覚の解剖学……………草 間 敏 夫
 頭痛の発生機序……………喜 多 村 孝 一
 いたみの中枢機構……………石 島 武 一
 中枢性疼痛

—とくに suprachalamic level

における障害例を中心として……………亀 山 正 邦
 筋のいたみ……………石 田 肇
 関節痛……………佐々木 智 也
 三叉神経痛……………若 杉 文 吉

いたみの脳外科的治療……………都 留 美 都 雄
 精神科領域におけるいたみの問題……………吉 松 和 哉・他
 いたみの薬理—鎮痛剤の作用機序—……………高 木 博 司

【原 著】

遺伝性運動覚反射性てんかん

—急激な運動開始によって惹起

するけいれん発作の5家系……………福 山 幸 夫・他

'67年8月 第11巻 第2号 1,250円

【特集 日本脳炎】

日本脳炎の展望—過去，現在，未来…川 喜 田 愛 郎
 節足動物媒介ウイルス（アルボウイル

ス）中の日本脳炎……………大 谷 明

日本脳炎の媒介蚊—その生態と生理—

……………高 橋 三 雄

動物の日本脳炎……………中 村 稔 治

日本脳炎ウイルスの電子顕微鏡学的研
 究……………東 昇

日本脳炎ウイルスについて—抗原構造
 の変異……………大 谷 明

日本脳炎の神経病理学における電子顕
 微鏡の寄与……………小 柳 新 策・他

日本脳炎研究の疫学における発展……………三 浦 悌 二
 日本脳炎の臨床—最近10年間の自験例

を中心として……………平 石 克 平・他

日本脳炎の脳波……………竹 下 研 三

日本脳炎のウイルス・血清学的診断……………石 井 慶 三

小児期にみられる急性脳症の鑑別……………小 宮 和 彦・他

日本脳炎の治療……………福 山 幸 夫

後遺症—精神神経学的立場から—……………後 藤 彰 夫
 急性期から慢性期にかけての日本脳炎

の神経病理学—その実態，病因，

臨床像との関連，将来の研究方

向……………白 木 博 次

日本脳炎ワクチン—作り方，効果，現状

の批判と期待……………川 喜 田 愛 郎

日本脳炎ワクチン接種後にみられる身

体諸反応—とくに神経系合併症に

ついて……………沖 中 重 雄・他

【古典のページ】

フォン・エコノモと嗜眠性脳炎……………豊 倉 康 夫

嗜眠性脳炎……………フォン・エコノモ

萬年甫・他（訳）

嗜眠性脳炎についての新知見……………フォン・エコノモ

萬年甫・他（訳）

'67年10月 第11巻 第3号 1250円

【特集 脳のシンポジウム】

- 開会の辞……………懸 田 克 躬
 姿勢と姿勢反射……………福 田 精
 脊髄・延髄・脊髄反射系について……………島 村 宗 夫
 前庭脊髄路の役割……………本 郷 利 憲
 除脳と除皮質……………藤 森 聞 一
 小脳の役割……………伊 藤 正 男
 大脳基底核の役割……………梶 林 博 太 郎
 姿勢の発達……………有 馬 正 高・他
 特殊の臨床的姿勢異常—〔1〕痙性麻痺における姿勢異常……………荒 木 淑 郎
 特殊の臨床的姿勢異常—〔2〕筋強剛……………塚 越 広
 特殊の臨床的姿勢異常—〔3〕Paraplegia in flexion……………亀 山 正 邦・他
 特殊の臨床的姿勢異常—〔4〕Dystonia ………………柳 沢 信 夫
 特殊の臨床的姿勢異常—〔5〕筋緊張低下……………平 山 恵 造
 特殊の臨床的姿勢異常—〔6〕脳性麻痺の姿勢異常……………長 畑 正 道
 特殊の臨床的姿勢異常—〔7〕脳幹と頭の運動……………関 野 宏 明
 姿勢—整移外科の立場から—……………津 山 直 一
 給 語……………梶 林 博 太 郎
 下等動物の情報処理……………桑 原 万 寿 太 郎
 手動制御における人間—機械系の応答特性について……………南 雲 仁 一

神経細胞レベルにおける興奮と抑制

- の機構……………内 齒 耕 二
 中枢神経における情報処理……………勝 木 保 次
 視覚と情報処理……………本 川 弘 一
 給 語……………内 齒 耕 二
 あいさつ……………白 木 博 次
 加齢の概念……………吉 川 政 己
 加齢と脳—解剖学の立場から—……………岡 本 道 雄
 加齢と脳—神経生理学の立場から—……………時 実 利 彦
 加齢と脳—神経化学の立場から—……………塚 田 裕 三
 加齢と脳のスフィンゴリピド—神経生化学の立場から—……………山 川 民 夫
 神経病理学的立場からみた中枢神経系の加齢と老化現象……………白 木 博 次
 脳の発達と小児神経学……………福 山 幸 夫
 加齢と脳—神経病学の立場から—……………黒 岩 義 五 郎
 精神医学よりみた加齢……………井 上 英 二
 精神医学の立場からみた加齢と脳……………金 子 仁 郎
 給 語……………白 木 博 次

【原 著】

- 脊髄ならびに脳幹における痛覚伝導路切截術の検討……………最上平太郎・他

【古典のページ】

- 器質性片麻痺とヒステリー性片麻痺の鑑別診断……………万 年 甫・他
 器質性片麻痺とヒステリー性片麻痺の鑑別診断……………J. Babinski
 万 年 甫(訳)